

I 結果の概要

1 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の方式

抽出調査（全国で約30%）及び希望利用調査
（平成19年度～21年度は悉皆調査）

4 調査期日

平成22年4月20日（火）

5 4月20日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

【抽出調査対象校】北海道（公立）

	対象学校数(校)	学校数(校)(抽出率)	児童生徒数(人)
小学校	1,214	239(19.7%)	9,122
中学校	664	232(34.9%)	15,765
合計	1,878	471(25.1%)	24,887

※上記の抽出調査対象校には、札幌市の公立学校を含む。

【希望利用調査参加校】北海道（公立）

	対象学校数(校)	学校数(校)(希望利用率)	児童生徒数(人)
小学校	975	804(82.5%)	24,542
中学校	432	357(82.6%)	18,398
合計	1,407	1,161(82.5%)	42,940

※上記の希望利用調査には、札幌市の公立学校は参加がない。

2 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 平成22年度の抽出調査については、各都道府県（公立）の教科に関する調査については誤差±1%程度の精度となるように標本抽出が行われているため、推計値である集計値については、全国（国・公・私立）の教科に関する調査及び児童生徒に対する質問紙調査については誤差±0.2%程度、学校質問紙調査については誤差±1%程度並びに各都道府県（公立）の教科に関する調査については誤差±1%程度の精度となっていることに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみでは必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、平均正答率の95%信頼区間や中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価する必要がある。

用語について

- ・北海道（合算）～札幌市を含まない本道の抽出調査と希望利用調査を合わせた結果
- ・北海道（希望利用）～希望利用調査に参加した学校の結果（ただし、札幌市の公立学校は参加がない）
- ・北海道（抽出）～札幌市を含む本道の抽出調査の結果
- ・全国～全国の抽出調査の結果

3 平成22年度調査における全道の状況 教科に関する調査の結果

<平成22年度調査>

北海道（合算）の調査結果は、北海道（抽出）とほぼ同様であり、全国と比べて、小・中学校とも、依然として全国の平均正答率を下回っている。中学校においては、小学校よりも全国との差が小さい傾向にある。小学校においては、算数Aの平均正答率が67.2%で、全国との差が7.2～6.8ポイントあり、ほかの教科よりも低い傾向にある。

<4年間の調査結果の推移>

【国語】

平均正答率 (%)			小学校国語				中学校国語			
			A (知識)	標準化 得点	B (活用)	標準化 得点	A (知識)	標準化 得点	B (活用)	標準化 得点
H 22	北海道 (公立)	合算	79.0	97	71.2	97	74.2	99	61.2	98
		抽出	79.1-80.6	98	72.5-74.6	98	74.1-75.3	99	62.1-63.7	98
	全 国 (公立)	83.2-83.5		77.7-78.0		75.0-75.2		65.1-65.5		
H 21	北海道 (公立)		66.0	98	45.9	98	76.1	99	72.6	99
	全 国 (公立)		69.9		50.5		77.0		74.5	
H 20	北海道 (公立)		60.5	98	46.4	98	72.7	99	59.0	99
	全 国 (公立)		65.4		50.5		73.6		60.8	
H 19	北海道 (公立)		79.4	99	58.0	98	80.5	99	70.0	99
	全 国 (公立)		81.7		62.0		81.6		72.0	

【算数・数学】

平均正答率 (%)			小学校算数				中学校数学			
			A (知識)	標準化 得点	B (活用)	標準化 得点	A (知識)	標準化 得点	B (活用)	標準化 得点
H 22	北海道 (公立)	合算	67.2	97	43.8	98	60.9	98	39.1	98
		抽出	67.8-69.9	98	44.1-46.1	98	61.8-63.6	99	40.1-42.4	99
	全 国 (公立)	74.0-74.4		49.1-49.3		64.4-64.8		43.1-43.5		
H 21	北海道 (公立)		74.1	97	51.5	97	61.6	99	55.4	99
	全 国 (公立)		78.7		54.8		62.7		56.9	
H 20	北海道 (公立)		66.4	97	47.7	98	60.3	99	45.9	99
	全 国 (公立)		72.2		51.6		63.1		49.2	
H 19	北海道 (公立)		76.8	97	58.6	98	68.6	99	57.6	99
	全 国 (公立)		82.1		63.6		71.9		60.6	

※標準化得点について

調査問題は毎年異なるので、平均正答率を年度間で単純比較することはできません。そこで、全国（国・公・私）の平均正答率を100としたときの北海道の正答率を示すことで、年度間の比較ができるようにしています。

【小学校調査】

【国語に見られる課題】

- 言葉の意味や使い方を理解し、相手や場などに応じて適切に言葉を使うこと
- 漢字を正しく理解し、文脈に沿って適切に活用すること
- 目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明すること
- 複数の条件を満たして、分かりやすく表現すること

【算数に見られる課題】

- 面積を求める公式や四則計算のきまりなど、基礎的・基本的な内容を理解すること
- 割合の意味を理解し、適切に表すこと
- きまりに従って、計算の仕方を考えたり、与えられた条件等に基づいて判断し、計算したりすること
- 平面上にかかれた図形の情報を基に、図形の大きさなどを判断すること

【過去4年間、継続して見られる課題】

- ・ 学習した漢字を使って書くこと
- ・ 相手や目的、意図を明確にして話したり書いたりすること
- ・ 計算の順序についてのきまりを理解し、正しく計算すること
- ・ 図形の面積を計算して求めること

【中学校調査】

【国語に見られる課題】

- 文章や話の内容の論理の展開の仕方をとらえて、理解すること
- 目的や意図、場、相手に応じて、適切に分かりやすく文章を書くこと
- 文章の表現の仕方や比喩的な表現を理解すること
- 文章に書かれている内容を理解し、自分の考えを明らかにして書くこと

【数学に見られる課題】

- 起こり得る場合の事象を想定して見通しをもったり、数量の関係や法則を理解して数学的に表したりすること
- 立体図形の体積を求めるなど、既習の内容を活用して公式をつくり出し、理解すること
- 必要な情報を選択し、問題を解決するための構想を立てて、数学的に表現すること
- 根拠を明確にして、筋道を立てて証明すること

【過去4年間、継続して見られる課題】

- ・ 学習した漢字を使って書くこと
- ・ 条件に応じて話したり書いたりすること
- ・ 文字や指数の意味を理解し、確実に計算すること
- ・ 図形の基本的な性質を理解し、面積や体積を求めること

解答用紙から分かる状況

- 問われていることに正対しない解答が見られた。
- 解答欄への書き方が、はみ出したり、枠に対して非常に小さい文字で書いたりするなど、見づらい文字で解答している傾向が見られた。
- 文字や数字が乱雑に書かれ、自分の考えを採点者に伝えようとする姿勢が弱い傾向が見られた。

質問紙に関する調査の結果

【児童生徒質問紙】

- 全国と比べて、国語の勉強が好きな児童（小学校）の割合は高く、生徒（中学校）の割合は同様であり、算数・数学が好きな児童生徒の割合は同様である。
- 全国と比べて、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は低い。
- 全国と比べて、家で学校の宿題をする児童の割合は低く、生徒の割合は同様である。

【学校質問紙】

- 全国と比べて、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は低い。
- 全国と比べて、授業で調査問題を活用した学校の割合は低い。
- 全国と比べて、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は小学校で同様であり、中学校で低く、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は小・中学校とも低い。
- 全国と比べて、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は低い。

クロス集計の結果

【児童生徒質問紙×平均正答率】

- 家で学校の宿題や授業の予習や復習をしている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 読書の好きな児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 朝食を毎日食べている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

【学校質問紙×平均正答率】

- 家庭学習の課題（宿題）を与えている学校の児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしている学校の児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 児童生徒は熱意をもって勉強していると思う学校の児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

地域別集計の結果

- 地域規模別（中核市、その他の市、町村、へき地）の平均正答率は、道の平均正答率とほぼ同様の傾向が見られる。
- 管内の平均正答率について、全道的な散らばりが大きい傾向が見られる。
- 市町村の平均正答率について、全道的な散らばりが大きい傾向が見られる。

調査結果のまとめ

- 教科に関する調査結果については、過去4年間、全国平均との差は縮まっていない状況であり、毎年、同じ傾向の問題（漢字の書き取り、条件に合わせた文章記述、四則計算、求積の問題など）につまづく傾向が見られるため、学習内容の系統性等を踏まえた上で、各学年における基礎・基本の定着と身に付けた基礎・基本を繰り返し活用する指導を充実する必要がある。
- 義務教育段階で身に付けておかなければならない基礎・基本の確実な定着を図るため、授業以外の学習の時間や機会の確保、拡充を図る必要がある。
- 読書に親しませ、読書をする機会の拡充を図る必要がある。
- 主体的に学習に取り組む態度を養うため、家庭学習の充実を図る必要がある。
- 規則正しい生活リズムで生活させ、生活や学習への意欲や自信をもたせる必要がある。

調査結果を受けた取組

- **基礎・基本の定着**
 - ・ 児童生徒一人一人が「分かる、できる授業」を展開するために、学習した内容を定着させる場面やノートの指導などの充実
 - ・ 学校、家庭、地域におけるチャレンジテストの活用の推進
 - ・ 放課後や長期休業日を利用した補充的な学習サポートの実施など、授業以外の学習の時間や機会の確保、拡充、充実
 - ・ 退職教員等を活用した学習サポートなどによる個に応じた指導の充実
 - ・ 教科指導に卓越した教員が、複数の学校を巡回し、若手教員等の指導力の向上を図る巡回指導教員活用事業や土曜教師塾等による教員の指導力の向上の取組の充実
- **学習習慣の確立**
 - ・ 家庭学習ノートを活用したり、学校の授業と関連を図った宿題を出したりするなど、学校と家庭や地域との連携の充実
 - ・ 望ましい生活習慣を子どもに身に付けさせるための保護者を対象とした親塾等の研修会等による家庭への啓発の取組の充実
- **生活習慣・生活リズムの確立**
 - ・ 学習支援や生活習慣の確立のための学生ボランティア等の活用の推進
 - ・ 家庭において「早寝早起き朝ごはん」等の取組を進めるなど、生活習慣形成の基盤づくりの推進
- **読書活動の充実**
 - ・ 学校における朝読書など読書の時間や機会の拡充
 - ・ 外部人材を活用した「読み聞かせ」などによる読書に興味をもたせる活動の充実

※ 学校・家庭・地域へ期待すること ※

本道の子どもの成長を支えるサポーターとして、次のことを期待します。

学校
基礎・基本を身に付ける
わかる授業の推進

家庭
規則正しい生活を送るための
生活リズムの確立

地域
子どものよさを伸ばし
学びへの意欲を高める
環境づくりの推進